

安芸太田町の現状

S
町の強み

- ・自然環境が豊か
- ・高齢者が元気
- ・ひろしま活力による農業の新しい取り組み
- ・高速道により広島市とも近い
- ・光ファイバー網整備による高速ネット環境構築

W
町の弱み

- ・少子高齢化の進行による担い手や後継者不足
- ・空き家の増加
- ・耕作放棄地や荒廃林地の増加、鳥獣害被害の増加
- ・産直市の品目不足、小規模農家の活用不足、集荷の課題
- ・急峻な地形による農地不足、災害の懸念

O
環境機会

- ・コロナ禍によるリモート職場の拡大、アウトドア志向、地方への回帰
- ・ネット通販の拡大
- ・健康志向やサイクリング熱の高まり
- ・棚田法、食の安全、SDGsによる新しい取り組み
- ・ふるさと納税への関心の高まり

T
環境脅威

- ・コマツナの広島市場飽和、野菜単価の下落
- ・修学旅行(教育旅行)の縮小
- ・資材、物流コストの高騰
- ・少子高齢化、過疎化のさらなる進行
- ・暖冬による冬場産業の衰退

統計数値分析の結果

- ・人口は減少し、高齢化率や農業従事者の平均年齢は上がっている。
⇒人口減少率と高齢化率は県内ワーストである。
農業従事者平均年齢は、北広島町と同じレベルとなっている。
- ・販売農家は大きく減少しているが、自給的農家は減少幅が少ない。
産直市への年間出荷者数も減少している。
⇒自給的農家を産直市への出荷者へ転換していく必要がある。
自給的農家があり、産直等へ販売していない農家があり、転換の余地はあると思われる。
- ・人口減少により農家数が大幅に減少し、農地も減少しているが、農業総生産額は減少しておらず、わずかながら増えている。
H27 235百万円 ⇒ R2 251百万円
⇒ひろしま活力事業による農業生産額の純増が、農家数の減少による影響を食い止めていることが数値に現れている。
ふるさと納税の増加による消費の拡大も貢献していると思われる。

国勢調査、農林業センサス等の統計数値から

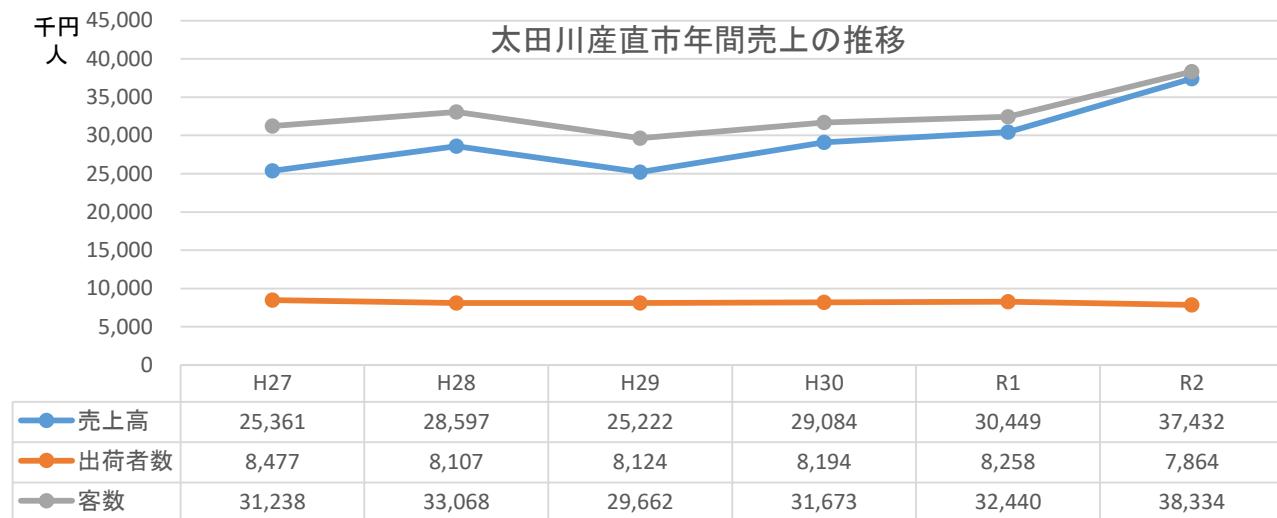
ハイフンは数値なし

No.	種別	自治体	単位	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015	R2 2020	変動率 平均
1	国調人口	安芸太田町	人	9,181	8,238	7,255	6,472	5,744	88.9
		北広島町		21,929	20,857	19,969	18,918	17,778	94.9
2	高齢化率	安芸太田町	%	39.3	42.6	45.3	49.1	50.4	106.4
		北広島町		31.8	33.2	35.0	37.2	38.0	104.6
3	農業従事者 平均年齢	安芸太田町	歳	-	61.4	63.0	65.2	66.5	102.7
		北広島町		-	59.0	61.0	62.3	64.0	102.7
4	農業経営体	安芸太田町	経営体	-	421	374	308	206	79.4
		北広島町		-	2,675	2,200	1,786	1,286	78.5
5	専業農家	安芸太田町	戸	141	130	131	112	-	92.8
		北広島町		700	689	637	583	-	94.1
6	兼業農家	安芸太田町	戸	410	281	230	183	-	76.7
		北広島町		2,443	1,899	1,472	1,099	-	76.6
7	総農家数	安芸太田町	戸	4,420	3,725	3,122	2,552	1,850	80.6
		北広島町		3,753	3,317	2,889	2,460	1,918	84.6
8	販売農家	安芸太田町	戸	551	411	360	295	194	77.5
		北広島町		3,143	2,588	2,109	1,682	1,197	78.7
9	自給的農家	安芸太田町	戸	726	726	653	575	459	89.5
		北広島町		610	729	779	778	719	104.7
10	経営耕地面積	安芸太田町	a	48,201	40,752	29,328	28,253	22,070	82.7
		北広島町		328,728	279,175	302,213	306,260	270,264	95.7
11	農業総生産額	安芸太田町	百万円	-	235	247	223	251	102.6
		北広島町		-	3,409	3,425	3,528	4,056	106.1
12	水稻作付面積	安芸太田町	ha	-	289	273	253	212	90.3
		北広島町		-	2,040	2,130	2,110	2,100	101.0
13	水稻収穫量	安芸太田町	トン	-	1,390	1,320	1,190	1,000	89.7
		北広島町		-	10,500	10,700	10,300	10,900	101.3
14	耕地面積 田	安芸太田町	ha	-	456	447	445	424	97.6
		北広島町		-	3,460	3,430	3,400	3,360	99.0
15	耕地面積 畑	安芸太田町	ha	-	151	146	143	136	96.6
		北広島町		-	389	368	355	360	97.5

1~2 国勢調査
3~10 農林業センサス
11 市町民経済計算結果
12~15 作物統計調査

町及び産直市の販売数値から

No.	種別	単位	H27	H28	H29	H30	R1	R2
16	祇園坊柿販売額	千円	25,577	29,297	21,440	20,903	23,710	22,640
17	産直市年間売上額	千円	25,361	28,597	25,222	29,084	30,449	37,432
18	産直市年間出荷者数	人	8,477	8,107	8,124	8,194	8,258	7,864
19	産直市年間客数	人	31,238	33,068	29,662	31,673	32,440	38,334
20	産直市年間客単価	円	812	865	850	918	939	976

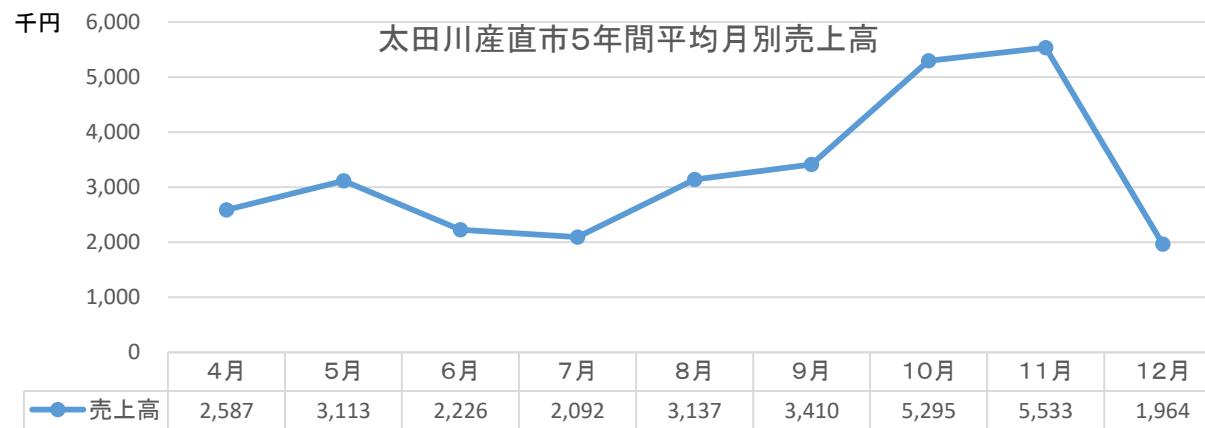


産直市のR2個人生産者別売上実績から(団体は除く)

旧町村	大字	人数	平均年齢	平均売上	売上総額
加計	穴	5	67	206,040	1,030,200
	坪野	1	88	366,860	366,860
	津浪	1	78	75,140	75,140
	加計	10	63	256,471	2,564,710
	下殿河内	1	83	98,080	98,080
	下筒賀	2	55	26,615	53,230
	小計	20	66	209,411	4,188,220
筒賀	上筒賀	8	76	154,745	1,237,960
	中筒賀	12	75	178,583	2,142,990
	小計	20	75	169,048	3,380,950
戸河内	戸河内	3	72	164,267	492,800
	土居	3	72	107,990	323,970
	吉和郷	1	62	3,840	3,840
	柴木	1	66	596,160	596,190
	川手	3	80	148,040	444,120
	松原	4	82	120,315	481,260
	小板	1	49	45,400	45,400
	寺領	12	70	333,344	4,000,130
	上殿	8	80	207,436	1,659,490
	猪山	2	63	20,335	40,670
小計	38	73	213,839	8,087,870	
合計		78	72	200,731	15,657,040

町及び産直市の販売数値分析の結果

- ・祇園坊柿の販売量が、年度間でばらつきがある。
⇒生産量が安定しておらず、収穫・加工の人手不足、後継者、老木化、機械の老朽化などの要因がある。
- ・産直市の売り上げ 9か月で3千万円を達成した。
⇒当初の目標は年間通しての開業で3千万円であったが、冬季間(1月～3月)休業の9か月で3千万円の売り上げを達成した。
客数や客単価も順調に伸びている。
令和2年はコロナの影響か、特に大幅な増加があった。
- ・産直市出荷者数が減少している。
⇒高齢化の影響が表れている。



産直市の個人生産者別売上実績分析の結果

- ・産直市へ出荷する生産者の全町の平均年齢は72歳である。
(旧町村別 加計:66歳、筒賀75歳、戸河内73歳)
⇒農業従事者の平均年齢67歳に比べ、産直市に出荷する生産者の平均年齢が高いことがわかる。
各地域とも、全般的に平均年齢が高いところが多い。
- ・生産者数、売上総額とも戸河内地区が多い。平均売上は加計地区と戸河内地区が同じくらい、筒賀地区がやや低くなっている。
⇒立地の影響からか、戸河内地区の生産者が多くなっている。
- ・複数の生産者がいる地区での平均年齢が70歳超え(黄色)が5地区、80歳超え(赤色)が3地区見られる。
⇒今後の生産出荷量確保のため、新しい生産者の開拓や、出荷者の確保をしていく必要がある。
また、遊休農地・休耕地の有効活用も併せて求められる。
- ・産直売上高のうち、約700万円が町外の芸北産(トマト、アスパラ、リンゴ等)となっている。
⇒町内産だけではスペースが埋めれない現状があるが、製品の充実には貢献している。

担い手・農業委員会・小規模出荷農家・地域商社による意見を反映した新たな戦略(案)

●農業のプロによる営農指導体制の構築と生産者の掘り起こし【地域商社、農業委員会、担い手、小規模出荷農家】

高齢化が進行する実態が改めて浮き彫りになり、新しい販売農家の確保のため、自給的農家の販売農家への転換や、小規模農家への出荷野菜の多品目化や出荷野菜の推奨等の指導を行う。作付け等のアドバイスを行いながら、農家の活性化と出荷農家への転換による野菜出荷による生きがいをづくりを行う。

●産直市の体制や出荷ルールの再構築による販売単価の見直し【農業委員会、担い手、小規模出荷農家】

販売手数料の見直しや、品目による単価の固定、販売単価の見直し等、営農指導と合わせた「良い野菜」を売る体制の整備と、新しい出荷等のルール作りを行う。特に高品質の野菜作りで、安値販売から転換するルール作りを行う。

●集荷体制の整備による出荷野菜の増【農業委員会、担い手、小規模出荷農家】

町内でも特に遠方からの出荷が少ないため、小規模農家の出荷促進のために野菜の集荷を進めていく。また、集荷体制の整備により、担い手農家からの出荷数量の増を併せて進めていく。

●農業に従事する外部人材の確保【地域商社、担い手】

担い手農家や加工所の従業員・従事者としての労働力を確保する。研修生等の制度を活用し、人件費の支援も行う。また、通年雇用促進のため、冬場の仕事や農業にとどまらない仕事を行う。住居の確保も併せて行い、外部から来てもらいやすい環境を提供する。

●祇園坊柿生産者へのハード・ソフト両面の支援と連携促進【農業委員会、担い手、町】

老朽化した加工機械の更新、収穫作業や後継者などの人材確保など、ハード・ソフト両面からの支援を行う。また生産者団体の連携を促進し、町の特産品ブランドとしての品質の統一化をすすめ、連携を強化する。

●リレー収穫による長期間の同一品目の出荷体制の構築【農業委員会、担い手】

安芸太田町ならではの標高差を活用したリレー形式の野菜の収穫・出荷により、長期間の安定した出荷体制を構築し、「産直市に行けばあれが買える」という町の看板商品としての定着を図る。

●使える農地の集約化と有効活用【農業委員会、町】

農業委員会と連携した県の農地確保マッチング事業や、中山間地域等直接支払交付金の集落戦略作成に取り組み、遊休農地の担い手農家への貸し出しや県内外の農業参画企業への貸し付けを進め、出荷製品の増を図る。

●食品加工施設の設置と加工品目の充実【地域商社、農業委員会】

産直市の加工品の充実のため、既存の施設の活用や、産直市に隣接した施設の設置を行う。売り場面積増に合わせ、野菜に比べ日持ちのする加工品の充実が必要である。食品表示法令の改正や衛生管理に対応した加工所とする。

●スマート農業推進による担い手の負担軽減と経営安定・所得向上【町】

県のスマート農業推進プロジェクトがスタートし、町内のひろしま活力生のほ場で実証実験が行われている。省力化や出荷予測等の新しい技術を町内の担い手に横展開し、担い手農家の負担軽減による経営の安定化と所得向上、露地野菜など新しい野菜を産直へ出荷してもらおう事へつなげていく。

●小規模農家への支援【農業委員会、小規模出荷農家】

担い手などの大規模農家だけではなく、小規模農家に対しての支援として小型耕運機の購入補助など、新しい補助制度を検討する。

近未来像:目指すべき姿(案)



仮称 あきおおた地域産品直売センター



- 地域商社を核とした産直市の運営体制
- 新しい道の駅の産直市(直売センター)でより様々な商品の提供
- 食品加工所の設置により加工品の安定的な供給
- 祇園坊柿の生産量を安定させニーズに合う生産量確保
- 自給的農家から出荷販売農家への転換と出荷野菜の増
- より多くの町外からの来訪者によりお金(外貨)が循環
- 農家の農業所得の向上による生き甲斐づくりと税收のアップ
- 地域農業の担い手の活性化と新しい担い手の確保
- 農業従事者の通年雇用のため町ぐるみの通年の仕事の確保
- ひろしま活力生の生産量増と所得向上による経営の安定化

